

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名:理工学研究科 教授

氏 名: 半田 利弘

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州サンディエゴ、サンノゼ、 ニューヨーク州ニューヨーク
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月29日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>本海外研修は国際的な理工系実践教育プログラムを通じて、国際社会で活躍できる理工系人材の育成、およびグローバルな視点からローカルな課題解決に取り組むことができるグローバルな人材の育成を目的とする。</p> <p>理工学研究科修士1年生9名をアメリカへ派遣し、8名の学生がサンディエゴやサンノゼでの研修を行い、1名の学生がニューヨークでの研修を実施した。これは研究科Q2期と夏季休暇を利用した3ヶ月間の中期研修である。</p> <p>カリフォルニア研修は、国際コミュニケーション能力向上のため、サンディエゴ州立大学附属語学学校での英語語学研修を6週間行い、就業体験研修(在サンディエゴRNT Architect, Fleet Science center, 在サンノゼDisco-Hi-Tech America, 在サンノゼNippon Trends Food Service)で6週間実施した。また、参加学生は英語語学研修期間中にサンディエゴ州立大学工学部のさまざまな研究室を訪問し、そこでの研究活動紹介などを通じて現地学生の専門的な研究内容を理解した。ここでは、グローバル社会における理工系の課題、理工系企業の現場で求められる人的資質および、国際コミュニケーション能力について具体的な体験を通して学んだ。</p> <p>ニューヨーク研修は、同じく英語語学研修を5週間、協定校州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校で実施し、同大学エネルギー研究所では11週間の研究室インターンシップを行った。参加学生は、専門分野に近い研究課題が与えられ、現地学生との共同の実験作業やディスカッションなどを行い実践的な研究交流ができた。参加学生の専門性を高めることができ、帰国後の研究に対するモチベーションも上がっている。</p> <p>そして、ローカルな課題解決に取り組むために、参加学生は事前学習として鹿児島県内地域企業等へ訪問し、企業情報や抱えている課題について情報収集を行った。ここでは、参加の学生が鹿児島県内企業や産業に目を向ける機会になった。研修中、参加学生は就業体験研修先や現地企業の情報収集を行い、帰国後の成果発表で企業比較や課題解決等に取り組んでいる。この成果は11月に開催される第2回理工学研究科グローバル人材シンポジウムで報告される。</p> <p>本海外研修での国際コミュニケーション能力向上の成果は、帰国後、来月11月に実施するTOEIC IPテスト結果で判断する。研修終了後の参加学生アンケートで、参加学生ほぼ全員がこの留学経験が学業、就職活動等に役立つと答えている。この結果から、将来のキャリア形成において、海外での就職や駐在、進学など、彼らの選択肢が広がったことが分かる。グローバル社会で活躍する技術者・科学者に繋がる入り口になっていると言える。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本海外研修は地域貢献型プログラムになっている。今年度において、参加学生は専門分野を考慮し鹿児島県内企業情報を収集、在アメリカの企業との比較などを行った。これは、参加の学生が鹿児島県内企業や産業に関心をもつ機会になった。しかしながら、初年度ということもあり、鹿児島県内企業や産業とカリフォルニア、ニューヨークにおける産業や関連企業への結びつけや情報収集などが難しかったように感じた。</p> <p>次年度は明確にできるように取り組みたい。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA(地域貢献型)及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。